

誤答傾向としては、

ア→40%　イ→30%　ウ→30%、とな
っている。この場合の、選択肢から考える
と、ア→もれる、イ→もれる、ウ→燈、の
意味が、きめ手となっている。いきなり、
様子・心情と、進まないで、事柄をしっか
り読みとらせることが大切なことを示して
いる。

③ 読む（文字）

(1) ことばの基本形がわかる。

ことばを国語辞典で調べる場合、大切な前
提条件となる能力である。ここでは、

にくまれ続ける。 つつましくひかえめの
↓ ↓
正答率 44.6% 正答率 76.6%

基本形を書くことを求めている。

にくまれ続ける の基本形を誤ったものの
90%が、にくまるとしている。にくむ と
いう基本形に思い至らなかったのである。受
身の助動詞のためであろう。

④ 読む（語句）

この領域は、小問24のうち、9問が下がっ
ている。一番下がったのは、「簡単」の反対語、
「複雑」を選ぶ問題である。それでも正答率は、
84.9%である。

特にできの悪いのは、五の2である。これ
は、「文脈の中で語句の意味をつかむ」問題で、
26.2%の正答率である。誤答傾向は次のよう
になっている。

おをひく、
ア 事実におを引いて
イ 長くおを引いて
ウ ねがおを引いて
エ あのとときのきずがおを引
いて
エア→32%　エウ→10%
エだけ→32%　その他26%

この問題が低率なのは、「二つ選ぶ」とあるの
に、ひとつしか、選ばないものが約半数いる
ことである。しかも、正答のひとつである。
エを選んでいものが、32%いる。また、こ
のような、慣用句的な、意味のズレてくる語

句の理解が、苦手な子の多いことによるもの
であろう。辞書的な意味をおさえるとともに、
ズレる場合もよく指導しなければならない。

⑤ 書く（語句）

ここでは、10問のうち、2問が、下がってい
る。

(1) 文章の中で語句を正しく使う、(一の3)

「きみのすばらしい活やくを→期待する」

と続ける問題であり、80%の正答率である。

(2) 敬語を正しく使う（三の1）

母はいま外出して
いて家には
ア おりません
イ いらっしゃいません
ウ おいでになりません。

と問題であり、自分の母のことを、相手に
伝えるということを、わからせることであ
る。敬語の基本的な使い方を指導しておく
必要がある。

⑥ 書く（文・文章）

小問が14あり、そのうち、4問が下がってい
る。

(1) 「接続語、指示語を正しく使う」方をみ
る問題である。説明文などを、分析的に読
むことが、行れているようであるのに、下
がっているのは、指示語や接続語を、単に
おさえるだけで、内容とのかかわりを追求
しないからであろうか。

(2) 内容にあった文体を使って書きわせる。

(六の2) 8.8%下がっている。誰が、誰
に、たのんでいるか、読みとることが第一で
ある。その上で、相手を考えて、それにふ
さわしい、ことばづかいを選ぶわけである。

○ 読む問題は、まだ「ことば、文、文章に
即すること」が、ていねいになされてい
ないのではないか。話し合いの前に、ひ
とりひとりが、読む時間を多くとるよう
にしてやるべきだと思う。

○ 書くことでは、記憶させるための、効
果的な練習が何よりも必要であろう。